

— 原著 —

不妊相談センターを開設して

香川県不妊相談センター

香川県立中央病院産婦人科

川田 清彌

三豊総合病院産婦人科

川崎 香里

概 要

平成 8 年厚生省児童家庭局長通知の生涯を通じた女性の健康支援事業実施要綱をもとに香川県は平成 11 年新規事業として“すこやか妊娠サポート事業”を発足させ、そのなかの不妊専門相談センター事業が平成 11 年 7 月に香川県立中央病院に不妊相談センターとして開設された。

不妊相談センターでは不妊で悩む夫婦を対象に医師と保健婦で相談に当たり平成 11 年 7 月から平成 12 年 6 月までの 1 年間の相談件数は合計 340 件であった。情報源としては新聞が 105 件と最も多く、相談内容では、医療情報についての問い合わせが 245 件を占め、治療の悩みが 55 件治療以外の悩みが 21 件その他が 19 件であった。我々医師は外来で不妊患者に検査、治療に専念して来たが、日本の医療に欠けている患者の心理的側面への援助という観点からこの不妊相談センターは意義あるものとする。

はじめに

平成 8 年厚生省児童家庭局長通知¹⁾の生涯を通じた女性の健康支援事業実施要綱には『女性の健康支援は、女性自身の日常生活の基盤を形成し、生涯を通じた生き甲斐のある生活を送るために重要なばかりではなく、児童の健全な育成についても大きな影響を与えるため、女性の健康支援を充実し、適切な健康教育や相談体制の確立を図る』と唱っており、これをもとに香川県は平成 11 年新規事業として“すこやか妊娠サポート事業”を発足

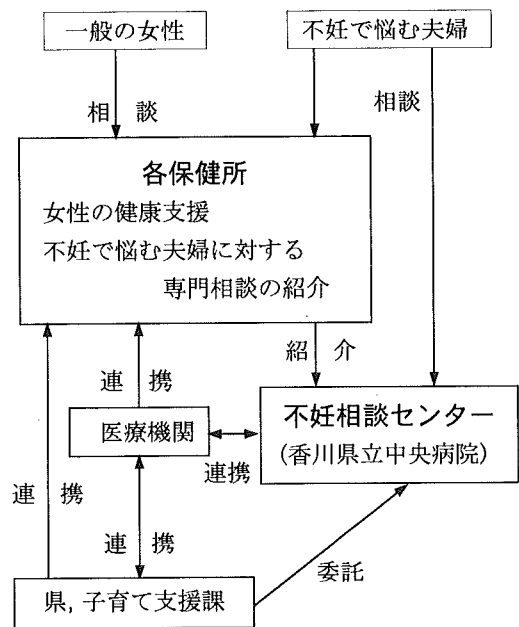


図 1 すこやか妊娠サポート事業フローチャート

させた。(図 1) これには、女性の健康支援事業と不妊専門相談センター事業があり、そのうち不妊専門相談センター事業が香川県立中央病院に委託され、平成 11 年 7 月に香川県立中央病院に不妊相談センターが開設された。不妊相談センターが開設され一年が経過したのでその現状を報告し、問題点、今後の課題について検討した。

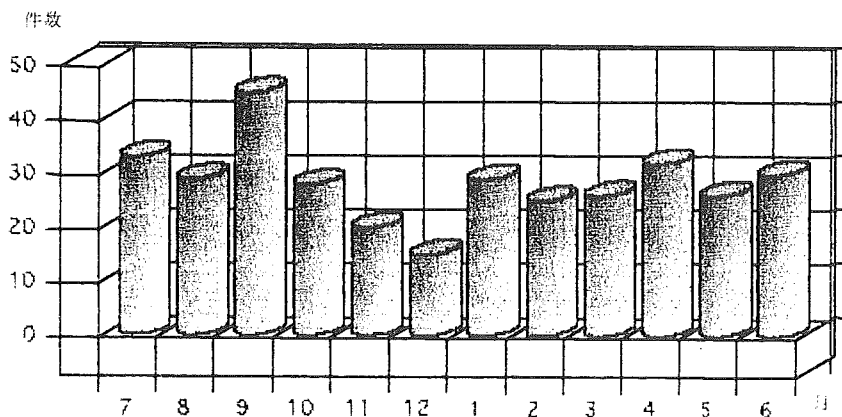


図2 月別相談件数

方 法

不妊相談センターは保健衛生センターに設置され、その事業内容は不妊で悩む夫婦を対象に医師と保健婦で相談に当たる。まず医師による専門相談は不妊に悩む相談者の来所により、相談日は週1回、保健婦による相談は電話、ファクスによる一般からの相談や、保健所、市町、医療機関からの紹介などで週3回、1日3時間となっている。相談があれば不妊相談票が作成される。不妊相談票には受付年月日、年齢、性別、情報源、不妊期間、不妊原因、不妊検査、治療の有無、相談項目、相談内容の項目がある。

今回平成11年7月から平成12年6月までの1年間の相談件数340件の不妊相談票につき検討を加えた。

結 果

平成11年7月から平成12年6月までの1年間の相談件数は合計340件であり、電話相談が283件、来所相談が54件、FAXによるものが3件であった。月別の相談件数は図2のように一番相談の多い月は9月の46件、一番少ない月は12月の15件、平均28.3件であった。

どのような所から不妊相談センターの情報を得たかと言う情報源としては新聞105件、電話帳52件、ポスター44件、人に聞いて42件などであった。(表1)

表1 情報源

情報源	件数
新聞	105
電話帳	52
ポスター、パンフ	44
人に聞いて	42
雑誌、本	38
TV、ラジオ	19
その他	19
計	340

相談者の背景についての検討では、相談者の年齢別に見てみると30才台183件が一番多く続いて、20才台143件でありそれ以外は10人以下であった。相談者の男女比は男性が9件、女性が274件と圧倒的に女性からが多かった。相談者がすでに不妊症検査を受けているか否かについては検査済みは167件、検査中は20件、未実施は152件であった。不妊症に対する治療の有無については現在治療しているのは175件、治療していないのは165件であった。

次に相談内容についての検討では、医療情報についての問い合わせが245件を占め、治療の悩みが55件治療以外の悩みが21件その他が19件であった。医療情報245件の具体的な相談項目について複数解答では表2に示す如く病院情報につい

での問い合わせが96件、検査についてが77件、月経、基礎体温についてが71件、ARTについてが59件などであった。55件の相談があった治療の悩みについて詳しく見てみると治療への悩みが55件、病院への不満が30件、費用についてが19件、不妊への不安が18件であった。治療以外での悩みについては、夫とのことが18件、妊娠出産育児についてが10件、自分自身のことが7件、周囲との人間関係が5件であった。

表2 医療情報

医療情報	件数
病院情報	96
検査	77
月経、基礎体温	71
ART	59
男性不妊	23
人工授精	21
内膜症、筋腫	20
薬	16

考 察

不妊相談センターは平成11年25ヶ所の都道府県で開設されており本年度はさらに多くの県での開設が見込まれている。香川県での不妊相談件数は1年間で340件を数えたが、平成9年に東京都から委託されて開設している日本家族計画協会の不妊ホットライン²⁾では平成11年は1126件の相談を受け付けている。過去3年間で相談件数が多い月はメディアで不妊関係の事が話題になった時であるという。香川県でも地方家庭紙で報道された9月が一番多く情報源としての報道機関の重要性が認識された。日本家族計画協会の不妊ホットラインでの相談の特徴はピアカウンセリングの手法を取り入れていることである。香川県では相談員を不妊カウンセラー講座、体外受精コーディネータ養成講座に派遣し研修を重ねている³⁾。不妊治療におけるカウンセリングは重要な意味を持っているが現在の保険診療の医療体制の中では必ず

しも十分な情報を患者に提供するなどのインフォームドコンセントが確立されていなかった⁴⁾。我々医師は外来で不妊患者に検査、治療に専念して来たが、日本の医療に欠けている患者の心理的側面への援助という観点からこの不妊相談センターは意義あるものと考えられる。

相談者の背景で、男女比は圧倒的に女性からであった。これは不妊ということを女性の問題として捕らえられやすいことを示しており、女は子供を産んで一人前などの女性に対する有形無形の社会的な圧力をうかがわせた⁵⁾。

相談内容では医療情報の問い合わせが7割と最も多く中でもどの病院にかかればよい治療が受けられるかという病院情報の問い合わせが多く、相談センターでは伝聞である程度の事は把握しているが各病院の実情については不明な点が多い。この点に関しては今年度香川県内の不妊治療状況の実態調査を実施しその結果を冊子にまとめ保健所などの窓口などで閲覧、配布を予定している。医療情報の問い合わせで次に多いものは検査と基礎体温などの基本的な情報であり、また、相談者の約半数が不妊の検査、治療未実施であることは相談者の半数は漠然とした不妊の不安を持っているものと推察される。そこで不妊症に対する基本的な検査、治療について簡単に解説したものを先ほどの冊子に医療情報とともにまとめる予定である。治療の悩みでは、体外受精を薦められたが不安で、人工授精を10回以上もしているがこれでよいのか、などの治療への悩みとともに病院への不満が多くあった。これは同じ治療しかしてくれない、何の説明もない、医師に聞くと怒られた、など我々治療者側が反省すべきことが多く含まれていた。不妊治療を受けている女性のストレス実態を白井⁶⁾が調査しているがこれによると、不妊女性の精神的ストレスは自己への不全感と、否定攻撃因子で構成されており、ストレス点数が高い人は普通の困りごとに対して回避的行動をとりやすいなど、不妊によるストレスと普通のストレスに対しても同じような対処の仕方をしている。ソーシャルサポートのサイズは平均3人と小さく、ソーシャルサポートとのサポート度合いが高いのは夫と実母で、支

持的なサポートの中心は友人であった。これは治療以外での悩みでは夫との事が 18 件と最も多いのに関連があり、サポート度合いが高いはずの夫との感情の行き違いがあり逆にストレスになってしまい、救われない気持ちになることがあるという。男女共同参画社会では男性の意識改革が必要なのかも知れない。

新しい試みとして、かがわ健康福祉情報ネットワーク内に不妊 E-mail 相談を 9 月 11 日より開設した。従来の電話、来所による相談は双方に時間的な制約があったが、E-mail 相談では相談する方もされる方も自由な時間に相談、解答ができ相談者が気軽に相談できるのではないかと思われる。現在 2ヶ月が経過したが相談件数は全国各地から 34 件あり、これからの方向性を示すものと考えている。

結 語

平成 11 年度に不妊相談センターを開設し不妊と言う悩みが非常に多岐にわたるものであり、いままでの臨床の場ではなかなかそれに対処できていなかったということがいえ、ただ単に不妊の治療をするだけではなく、これらの相談者の立場を踏まえつつ今後の不妊の臨床にいかしていきたい。最後に不妊相談センターの立ち上げには県児童家庭課多田政子主幹、運営には県子育て支援課田中恵子副主幹、県立中央病院保健指導部高崎俊代副主幹、不妊相談員松下智子保健婦、三豊総合病院産婦人科関正明先生、E-mail 相談では県健康福祉総務課倉本幹也副主幹のかたがたにお世話になった、誌上を借りてお礼申し上げます。この論文の要旨は平成 12 年第 45 回日本不妊学会にて発表した。

文 献

- 1) 生涯を通じた女性の健康支援事業の実施について、平成 8 年 5 月 10 日児発第 4 8 3 号都道府県知事、政令指定都市市長、中核市市長宛 厚生省児童家庭局長通知
- 2) 北村邦夫. 不妊の当事者の悩みとその対応. 産婦人科治療 2000 ; 80 : 1117-1121.
- 3) 高橋克彦, 竹中真奈美, 吉岡美代子, 向田哲規. 臨床婦人科産科 1995 ; 49 : 1019-1022.
- 4) 金城清子. 生殖革命と人権 中公新書 1288 中央公論社 pp 130-132, 1996.
- 5) 大日向雅美. 母性は女の勲章ですか? 扶桑社 pp52-54, 1992.
- 6) 白井端子. 家族観の形成, 発達への教育的関わりについて, 不妊女性のストレス実態を通して. pp146-148, 平成 9 年度入学香川大学大学院教育学研究科修士過程学位論文